学校だより

みなみたなか

平成２４年１１月３０日
練馬区立南田中小学校
校 長　 柾 谷　雅 弘

東日本大震災での松島･島民の避難から学ぶ

校 長　 柾 谷 雅 弘

先日、宮城県の松島に出かけてきました。遊覧船に乗りましたが、船内で放送とは別に島々を見ながら被災の前後の違いについてその場所毎にガイドしてくださる方から、松島地方の東日本大震災での被害について詳しく聞くことが出来ました。

ご本人は、津波の被害は免れたものの家がほぼ全壊状態の中、必死に明るくガイドをしてくださっていました。その方が、話し終わったあと、船室内をあとにして、デッキに出て、港をじっと見つめる後ろ姿を目にしました。きっと、大震災の記憶は消え去ることはないと思いますが、努めて前向きに観光客に語りかけてくれた事が痛いほど分かりました。

松島湾には、大小２６０余りの島があり、その島々が、港町の被害を防いでくれたとのことでした。そのため、震災前と比べて島が半分以上流されてしまい、形状が大きく変わった島が数多くありました。その側を通過する度にくわしく説明してくれました。湾内の大きな島も、津波が襲い、家屋やのりの養殖に欠かせない一台八千万円もする高価な機械もほとんどが流されてしまったそうです。その壊滅的な打撃を受けた島には、９００人の人々が住んでいたそうですが、誰一人として亡くなった人はいなかったそうです。

なぜ、そんな島で全員が生存できたのか、それは、放送の指示を聞きしっかりと従ったからだというのです。地震直後に、高台にある小学校に避難するよう放送があり、島にいた人々が全員着の身着のままで避難したそうです。津波がいつ来るかと待っていましたが、その日は、小雪が舞い散る寒い日で、寒さに耐えきれず、一度、自宅に戻ったそうです。

しかし、家の中がめちゃくちゃで、のりや蠣・ワカメを売った現金もどこにあるかほとんど分からなかったそうです。そうこうしているうちに２回目の放送が入り、津波が来るので大急ぎで避難するよう指示があったそうです。もし一人でも、放送に従わない人がいたら、犠牲者が出たのですが、今回も全員が高台の小学校に避難をして全員無事だったということでした。

的確な放送を聞き、全員がその指示に従い行動が出来たのは、住民の方々の津波に対する心構えと住民の皆さんが、日ごろからの訓練に真剣に参加していたからだと実感しました。

この話から、日ごろから基本的なことを徹底して行うことの大切さを私は強く感じました。

本校で毎月実施している避難訓練を全員が今何をなすべきか判断し行動できるようこれからも指導していきます。（避難訓練に参加する態度は大変良くなってきています。）

また、当たり前のことを当たり前のように実践することの大切さを痛感しました。

教師にとっては、年間９００時間から１０００時間を超える毎日の授業を大切にし、一人一人の児童に確かな学力を身に付けさせることが出来るよう授業の改善を図ること。

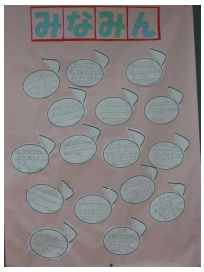
児童にとっては、授業規律をしっかりと守り、真剣に指導者の話を聞き、そして、友達と意見を交流し、自分の考えを更に高めていくことが出来るようにすること。

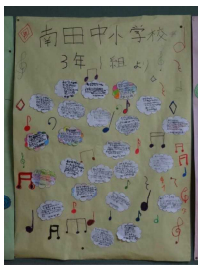
教師と児童のこの二つがぶつかりあって、良い授業が成立するのだと思います。

被災した児童・生徒の中には、自分の学校に戻れず、間借りしながら授業をしている学校もあると聞いています。そんな中、施設を一新していただき、恵まれた南田中小学校の校舎で授業をすることができる幸せを噛みしめながら一時間一時間の授業を大切に指導して参ります。

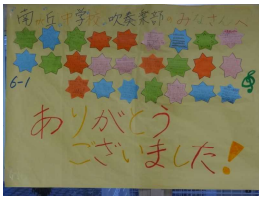
感謝の気持ちが、南が丘中学校の生徒の皆さんに確実に届いています。

谷原音楽祭のため、南が丘中学校に行きましたが、体育館手前の廊下に、９月８日の吹奏楽部の皆さんの素晴らしい演奏に対する本校全校児童のメッセージを掲示してくださっていました。





一人一人の感謝の気持ちは中学生の皆さんに確実に届いています。メッセージを大切に掲示していただきとても感激しました。



← 紙面の関係で、みなみん学級、3年1組、6年1組、6年2組のみ紹介させていただきました。